蝶類5種の個体変異について

宮下泰典
山梨県富士吉田市大明見 31
羽田祥二
山梨県富士吉田市小明見 1075
早見正一
山梨県富士吉田市下吉田 994
渡辺通人
山梨県南都留郡鳴沢村 3903
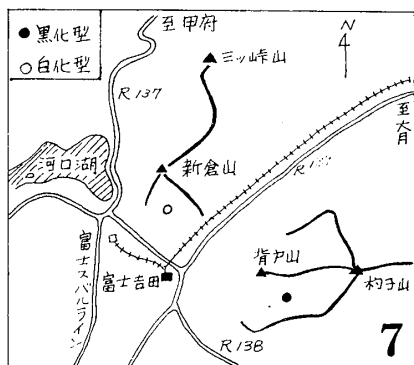
Fig. 7. ウスバシロチョウ黒化型・白化型産地

昭和44年度までに採集した個体の中で，異常と思われる9種について，九州大学の白水 隆博士に報告したところ，うち5種は発表する価値があると御勧めいただいたので，ここに報告する．

1. *Parnassius glacialis* BUTLER ウスバシロチョウ

1♂（黒化型），杓子山麓，1. vi. 1969，宮下泰典採集（Fig. 1a）

1♂（白化型），新倉，31. v. 1969，早見正一採集（Fig. 1b）

表日本産のものは，黒鱗少なく白味強く，裏日本産のものは，黒鱗が発達して暗化するのが普通であるが，表日本のほとんど同じ地域において白黒の2型，特に黒化型が産するのは珍らしいものと思われる．

2. *Pieris melete* MÉNÉTRIÈS スジグロシロチョウ

夏型♀，富士吉田市背戸山頂上付近，18. vi. 1969，宮下雅光採集（Fig. 2）

この個体は，縁毛も欠いていない程新鮮であるにもかかわらず，前後翅4枚共に透けて見える程鱗粉を欠いている．鱗粉欠除は翅の全面に一様に起ったものではなく，周辺部においてはその度合が弱く，特に白色鱗粉を多く欠いている．これは鱗粉形成過程の研究の1資料となるのではないかと思われる．
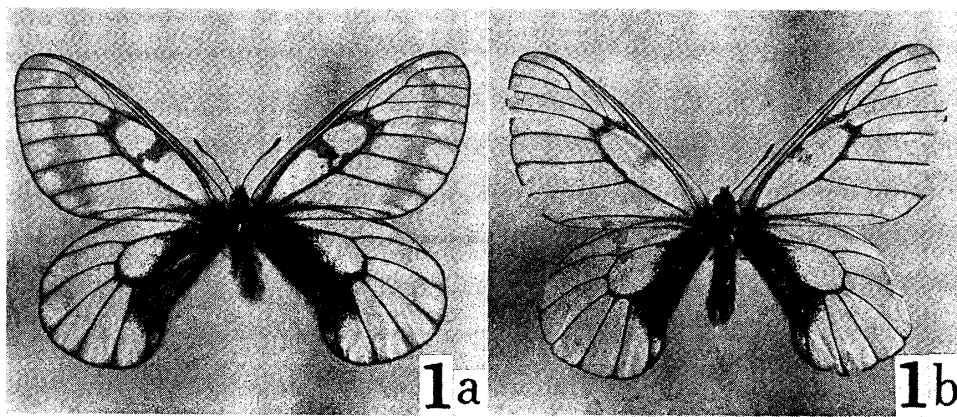
Fig. 1a. *Parnassius glacialis* BUTLER ウスバシロチョウ（黒化型♂表）
Fig. 1b. 〃 〃 （白化型♂表）
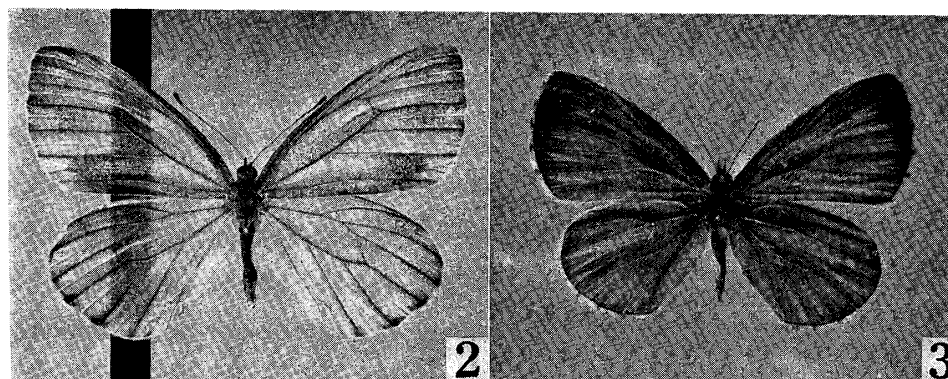
Fig. 2. *Pieris melete* MÉNÉTRIÈS スジグロシロチョウ（夏型♀表）
Fig. 3. *Celastrina argiolus ladonides* l'ORZA ルリシジミ（春型♀表）

3. *Celastrina argiolus ladonides* l'ORZA ルリシジミ

春型♀，富士吉田市杓子山中腹，29. iv. 1969，宮下泰典採集（Fig. 3）

この個体は，一見したところ♂のようであるが青色鱗粉の光沢や腹部末端の形態から判断して♀であることは間違いない．

前後翅とも，外縁黒帯が退化しており，前翅では前縁近くまで青色部が拡大している．後翅では，亜外縁の半月紋などはほとんど消失し，わずかに黒色鱗粉が散在する程度である．6・7室の黒色鱗粉も退化し，翅全体としては非常に明るい感じで，一見台湾産亜種（subsp. *crimissa* FRUHSTORFER）に似ている．白水博士によると，このような個体はおそらく初めてであろうとのことである．

4. *Araschnia burejana strigosa* BUTLER サカハチチョウ

夏型♂，富士吉田市背戸山，31. vii. 1969，宮下雅光採集（Fig. 4）

写真にみられるように本個体は，裏面中央白帯のまわりにおいて白化が起ったもので，特に後翅において著しい．このような個体は珍らしいものと思う．

Fig. 4. *Araschnia burejana strigosa* BUTLER サカハチチョウ（夏型♂裏）

5. *Neptis sappho intermedia* W. B. PRYER コミスジ 1♀，富士吉田市背戸山，採集日不明，高橋　渉採集（Fig. 5 & 6）

本個体は部分的に黒化または白化したものである．黒化の起っている部分は中央白斑列と前翅中室内の外側にある白斑で，中央白斑列は表裏面とも完全に消失しており，前翅中室端の外側にある白斑は表面においては完全に消失しているが，裏面においてはぼんやりと残っている．

他方，白化の起っている部分は，外側帯（外縁より2番目の白斑列）及び中間条（外側帯と中央白斑列の間に出現している白条）で，外側帯は前後翅とも表裏面において拡大し，正常個体よりも内側にかたよっている．また，中間条は前翅表裏面において，拡大して白斑列をなしている．

黒化部分：中央白斑列・前翅中室内の外側の白斑

白化部分：外側帯・中間条

なお，日頃から親切な御教示を頂いている九州大学の白水　隆博士に深く感謝の意を表します．また，大切な標本をお貸し下さり，発表を許された高橋　渉氏に感謝いたします．
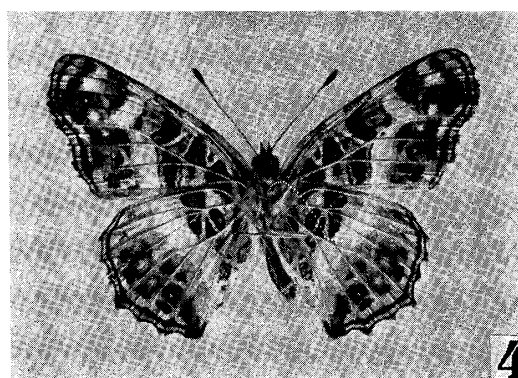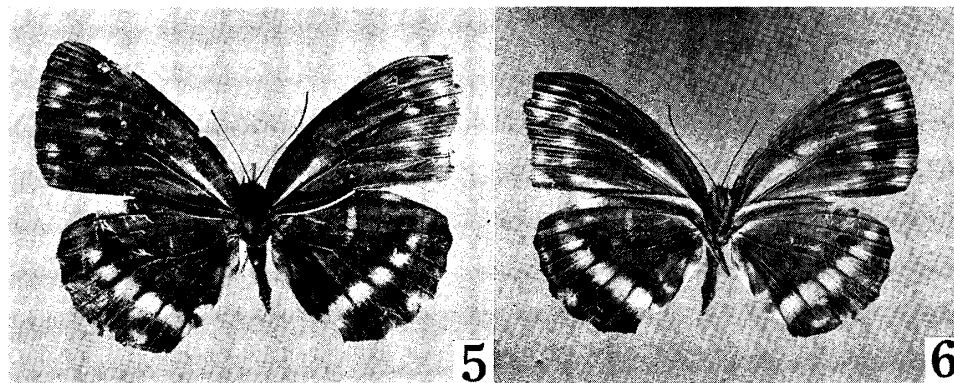
Fig. 5. *Neptis sappho intermedia* W. B. PRYER コミスジ (♀表)
Fig. 6. 〃 〃 (♀裏)

参 考 文 献

白水 隆: (1960) 原色台湾蝶類大図鑑 保育社 (大阪)
白水 隆: (1965) 原色図鑑日本の蝶 北隆館 (東京)
白水 隆・黒子 浩: (1966) 標準原色図鑑全集 I 蝶・蛾, 保育社 (大阪)

高知県でクツカケモンキチョウの傾向の個体を採集

秋 沢 稔 浩
高知市城山町 12 (新月アパート)

モンキチョウ *Colias erate poliographus* MOTSCHULSKY の翅表外縁黒帯中の黄斑が消失した異常型は，異常型としては顕著なものでないが，1920年に横山桐郎博士が ab. *kutsukakensis* と命名発表されてから，正常型と感じを異にすることで著名である．

筆者が最近採集した個体は，完全にクツカケモンキチョウ化したものではないが，四国ではこの異常型の採集記録がないようであるので，このような傾向の個体の採集例として報告しておきたい (Fig. 1).
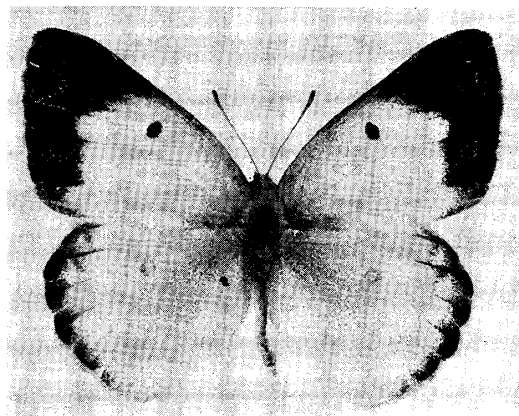
Fig. 1. *Colias erate poliographus* MOTSCHULSKY モンキチョウ異常型 ♂

1♂ (開張 49mm, 前翅長 27mm), 高知県長岡郡大豊村梶が森山頂 (1,400 m), 8. vii. 1971, 秋沢稔浩採集及び所蔵.

左右翅表の外縁黒帯中の黄斑消失は，前翅ではわずかに痕跡を残すのみで顕著であるが，後翅の外縁黒帯の黄斑消失は少ない.

他に正常型と比較すると，前翅では，中室端の黒円点がやや小さく，後翅では，中室端の蛩円紋はかなり小さく (正常型の約 1/2 の直径，1mm 強), M_1 室基部近くの小眼紋は，翅表においては完全に消失し，裏面では痕跡を残している.

この報告の記載にあたって，竹束正氏の御援助をいただいた．厚く謝意を表する.